

## プロジェクト情報

- 国名：バングラデシュ人民共和国
- 事業名：母子保健および保健システム改善事業  
(有償資金協力・円借款)
- 協力期間：2015年から2021年
- 相手国機関：保健家族福祉省

## 1. プロジェクトの背景・概要

バングラデシュの母子保健分野では、乳児死亡率や5歳未満児死亡率、妊産婦死亡率について一定の改善が見られます。しかし、熟練介助者による出産介助率と妊婦健診の受診率の低さは、依然として大きな課題となっています。

こうした状況の中、JICAでは、2006年から2016年にかけて「母性保護サービス強化プロジェクト（フェーズ1&2）（技術協力プロジェクト）」を実施しました。また、2011年から2014年にかけては、「母子保健改善事業（保健・人口・栄養セクター開発プログラム：HPNSDP）（フェーズ1）（有償資金協力）」が実施されました。

本事業では、前フェーズに引き続き、このプログラムに資する母子保健活動および全てのレベルの医療施設が提供するサービスの改善を支援することにより、母子保健サービスの改善および保健システムの強化を図り、バングラデシュ国民の保健改善に寄与することを目的とした取り組みを行っています。

## 2. ジェンダー視点から見たバングラデシュの母子保健の状況

バングラデシュの母子保健において大きな問題である熟練介助者による出産介助率と妊婦健診の受診率の低さは、妊産婦本人やその家族の母子保健に関する知識の不足に加えて、社会における女性の地位が低いことも要因の一つになっています。家庭内における意思決定権は夫や義理の母などにあり、女性は一般的に家庭内で意見を言うことができません。そのため、本人への働きかけだけでなく、家族やコミュニティ全体に対しても働きかけ、妊婦の健康を守るという意識の醸成が必要になります。

## 3. ジェンダー視点に立った取り組み

以下では、これまでの具体的な取り組みと効果、本事業の取り組みについて紹介します。

## (1) 「ノルシンディ・モデル」の構築

「母性保護サービス強化プロジェクト（フェーズ1）」では、コミュニティによる妊産婦への支援グループを組織することにより、妊産婦と母子保健サービスの提供施設との連携を強化する仕組みを示した「ノルシンディ・モデル」が構築されました。この取り組みの結果、公的機関における産前健診の回数と施設分娩数が増加しました。

## (2) 全国展開のための技術支援

「母性保護サービス強化プロジェクト（フェーズ2）」では、「ノルシンディ・モデル」で得られた知見や方策の一部をHPNSDPへ反映させて、全国へ普及するための技術支援を行いました。

HPNSDPでは、フェーズ2の取り組みを推進するために、妊産婦・乳幼児死亡率の低下を優先課題と定め、母子保健サービスの改善と保健システムの強化を主軸として、全国展開のために必要な資金協力（資機材調達、施設整備、研修など）を実施しました。

## (3) 妊産婦が安全に出産できる環境整備を支援

本事業では、HPNSDPに資する公的医療施設の整備、母子保健に資する機材の調達、保健人材の量と質の改善のための看護大学における教育・生活施設整備を実施しています。

さらに、コミュニティ支援グループへの研修や母子保健サービスを提供するコミュニティ・クリニックの新設を実施しています。

本事業の成果として、写真）住民グループへの研修の様子

研修を実施したコミュニティ支援グループ数が増加し、熟練介助者による出産介助率と妊婦健診受診率が上がりました。

このようにバングラデシュにおける妊産婦と新生児の健康状態を向上させるため、コミュニティ全体で女性と子どもの健康を守り、女性が安全に妊娠・出産できる環境づくりに貢献しています。

